

行政視察等報告書

平成28年4月18日

米子市議会議長様

会派名 信風

代表者氏名 伊藤 ひろえ

提出者氏名 安達 卓是



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	安達 卓是
期日	平成28年4月11日から平成28年4月12日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容）	「プロフェッショナル議員のための基礎講座シリーズ in 博多」 リファレンス博多駅東ビル（福岡市博多区博多駅東1丁目16-14） 1日目 第1講 地域活性化・地域の課題解決 第2講 行政改革と議会 2日目 第3講 マーケティングの視点を活かした住民へのコミュニケーション 第4講 行政評価、地域での課題を見える化
〔所感〕	別紙のとおり
経費	旅費総額 99,088円

## 別紙

地方議員研究会 <プロフェッショナル議員のための基礎講座シリーズ in 博多>

講師 永田 潤子さん (大阪市立大学大学院 創造都市研究科 准教授)

全講座(1講～4講)の講義

### ◎第1講 地域活性化・地域の課題解決

(1) 4月11日(月) 10:00～12:30

(2) 講義内容

地方創生とは、国と地方が一丸となって、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を「創生」とあり、これを東京一極集中を解消、地方経済を振興し若者を中心に地域で暮らす人を増やすこと。我がまち(都市)米子市が目指すものは、①地域再生? ②地域活性化? 地域創生のタイプ化とする。事業内容に新しいことではなく、『先駆性』を追求するとの指摘。

NPOバンクの仕組みと活用。事業審査のポイント:地域性、市民性、独自性、浸透性など。

地域の課題解決として、滝沢市のママ・カレッジの例として、お母さん目線により楽しみながら情報発信をして、生活が豊かになればよいと発想で、地域で活動領域を拡大する。

事例: 隠岐の島・海士町 ⇨ ひとづくり、ものづくり、健康づくりの3つの柱を設定

: 益田市匹見町 ⇨ ①男の料理教室 → ②民宿「雪船山荘」 → ③ブルーベリージャム作りⅣ  
④古代体験ツアー ⑤匹見中学校ふるさと体験ツアーなどをテーマ化し、女性のリーダーシップに着目し発掘する。

: 愛媛県今治市 「今治タオル」⇨今治タオルをブランド化し、存亡の危機からの再生。など

### ◎第2講 行政改革と議会 ～95年以降の自治体改革～

(1) 4月11日(月) 14:00～16:30

(2) 講義内容

18世紀 → 19世紀後半 → 20世紀末～ <『政府の役割の変遷』として>

近代国家 → 現代国家 → そして、今?

(立法国家) (行政国家) → ( )

構造的課題に対する改革(OECD主要国における実践(1980年以降))

アプローチとして、95年以降、自治体改革は「民間の経営手法」を導入した。つまり、New Public Managementである。行政経営の留意点:①住民意識と乖離する危険性、②経営革新が起こりにくい、③無駄や非効率が発生しやすい 改革意欲の減退を引き起こしやすい点を指摘。

業績・成果による統制について、実現方法として①行政評価システムの導入(数値指標による業績管理)、②成果志向の行動をとるためのインセンティブメカニズム(動機付け)の賦与、③使命(ミッション)に基づく組織、現場の裁量権の拡大、④「学習する組織」にむけた組織文化の変化などを指摘。

NPMは何を目指したか ⇨ 行政の刷新:つまり、「最適な担い手」、「最適な組織単位」、「最適なプロセス」、「情報公開」

事例として、○福岡市の改革、○大阪市の改革 →改革のマネジメント:戦略の存在、現状の見える化、改革のイニシアティブなど

○議会の役割:議会の危機? 三重県議会における検討→段階別のアカウンタビリティ→政治と行政の機能的区別、議会のあり方検討(10年前の最終検討結果報告書から) 8項目の指摘事項。滝沢市議会。

### ◎第3講 マーケティングの視点を活かした住民とのコミュニケーション

(マーケティング視点&ファシリテーション・スキル)

(1) 4月12日(火) 10:00~12:30

(2) 講義の内容

意思形成・合意形成の講義について、まちづくりの主体として、広く政策などの企画・立案、実施、評価などの各段階に住民は、自発的に関与することが望まれている。

「合意形成とは何か」、「より良い合意形成の方法があるのか」という問いを念頭に「理論」、「方法」、「実践」。21世紀に入り、コミュニティの特徴を考えることである。

議員の活動の中で全体のまとめとして、段階ごとに広聴手段の検証を実施する。

「男性視点」と「女性視点」を見極める。脳の左脳・右脳としての捉え方。

5つのアニマルモードを考えることがポイントである。①シャークモード、②テディベアモード、③亀モード、④きつねモード、⑤ふくろうモードを意識して使い分ける。

### ◎第4講 行政評価&地域での課題の見える化

(1)4月12日(火) 14:00~16:30

(2)講義の内容

「構造的課題に対する改革」を理解する。

民間の理念として行政評価の背景を知ること→①業績・成果による統制 ②市場メカニズムの活用

③顧客基点 ④ヒエラルキー構造の簡素化

○改革の仕組み：経営体質を変えるための4ポイント⇔①職場改善活動、②事業再構築、③人材組織開発、④経営インフラ整備

○行政評価から事業分析、事業分析手法：大阪市のごみ処理原価総合原価比較の実例をもとに①事業の現状、②事業の課題、③仮説と方向性、④今後の取り組みという4ステップで分析。

大阪市の取り組み実例による指摘。

○事業仕分け・・・行政自身で事業をスクラップすることはたいへん困難という認識で取り組む。

○地域課題の見える化について、①問題の発見、②あるべき姿を描く、③取り組みを始める、④評価する(課題が判る)というスキルを有効活用する

(所感まとめ)

今回の講座では、少人数の構成であったため講師と双方向の意見交換が随所に出来て、講座の受講時間を短く感じる事ができた。

議員の資質が問われる現在、その資質の向上はもとより普段の施策への取り組みと情報管理、情報発信力を磨くことへの追求が住民から求められていること気づかされた。四講座全体を通して、講師のキャリアをタイムリーに聞かされことにより指摘されるポイントが容易に理解で出来て有意義であった。

基礎講座シリーズというタイトルであり講義内容の大半が、シンプルであって議員研修に相応しい気づきをいろいろなところで体験できたことで今後の市議会議員の活動に役立てたいと感じた。